

5 令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立東大和高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

事務局長：総務部主任教諭

事務局：総務部 教員等5名 計6名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任 進路指導部主任、生活指導部主任、総務部主任

第1学年主任、第2学年主任、第3学年主任、 計10名

(4) 協議委員の構成

学識経験者(駿台予備学校)、近隣中学校長、地域（東大和市教育委員会職員、東大和市青少年課職員、東大和市スポーツ協会専務理事、地域代表）、PTA会長 計7名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年5月13日（金）

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校経営計画
本校の取組目標と方策についての意見交換

第2回 令和4年10月20日（木）

授業公開、本年度の各分掌の取組に関する進捗状況の報告、教育活動の報告に対する意見交換
学校評価の内容検討、協議

第3回 令和5年3月9日（木）

本年度の各分掌の取組の結果報告、学校評価アンケートの結果と分析 学校経営報告
次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年10月20日（木）

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた内容・実施時期の検討

第2回 令和5年3月9日（木）

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、提言の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：829人	回収率：87.7%
・12月 保護者全員	対象：829人	回収率：51.7%
・12月 地域	回収：60人	回収率：30.0%
・12月 教職員	対象：44人	回収率：100.0%

(3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全など

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・今年度は、ペーパーレスの観点から全てオンライン（Forms）を活用して実施した。今年度から一人一台端末を導入した初期の段階であることや気軽にできるからこそ、後回しにになってしまうなど回答率低下がみられた。今後の大きな課題となった。
- ・特に、保護者にはPTAメール等の活用も行ったが、回答状況がかなり低い状況であり、情報発信と共に大きな課題となった。
- ・教育目標はしっかりと認識している状況である。
- ・教育課程については、いずれも8割を超えているが、新課程が導入され、評価評定等、より丁寧な説明が必要であると考えます。
- ・学習の機会については、生徒の7割が肯定的であるのに対して、保護者は6割を切る値であった。
夏期講習を昨年度に続けて国語・英語・数学・社会・理科で実施しているが、部活動との調整が十分できていないことを含めて、実際の参加できた生徒もあまり多くはなっていなかったことも影響していると思われる。また、保護者への周知は十分ではなかった。学校全体で問題意識を持って早めの周知を行うことが必要である。
- ・進路指導については学校の柱でもあり、生徒に対しては目標としている8割に達することが出来た。保護者に対しても改善傾向はみられる。しかし、他の項目に比べると学習の機会と同様に否定的な回答も多く3者面談を保護者にしっかりと周知して行うことや、個別相談の機会を増やして、生徒・保護者へのサービス向上が不可欠である。
- ・規範意識については、生徒、保護者共に高い数値となった。今年度は自転車事故件数も減少することが出来たが、近隣からの自転車マナーに対する苦情も少なくない。継続して指導を続けていく。
- ・今年度の学校行事は以前よりも実施する事が出来たが、2、3年生においては、全面実施に向けた期待感も大きく、喪失感が低下を招いたと考えられる。特に3年生は修学旅行が実施出来なかった事が大きな容易であると考えられる。しかし、「そう思う」との強い回答も56.6%（生徒）になっており、学校行事の有用性は依然として高いと思われる。
- ・部活動については、本校に入学する生徒のほとんどは部活動を志望理由として入学してくる。生徒も保護者も期待度が非常に高い。その中で、コロナ禍において活動経験の低下や制限、そして「これからの部活動の在り方」に向け、生徒にとって有意義な部活動の在り方について検証し改善を図る時期であると考えます。
- ・下校状況については、約9割が速やかに下校していると思っている。その日やらなければならないことをその日のうちに終わらせる姿勢・態度を継続して育成したい。切り替えを上手に行わせることは、学力の向上にもつながることができる。
- ・SNSの利用状況については、高い意識で活用できていることは大変好ましいことである。一方で、SNS等に関するトラブルは年々多様化しており、継続して学校として指導を継続していく必要があると考えます。
- ・学校からの情報発信については、今年度、Teamsの活用が活発になり、生徒は情報発信が多く行われていると感じている。一方で、保護者はTeamsにはアカウントが無くわからない状況である。
Teamsからの発信が増えたこともありホームページの更新回数も昨年度に比べ減少している。また、保護者からは紙文書での連絡が伝わらなく、SNS等での発信を望む声も多く挙げられており、今後検討していく必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

- ・学習指導に関しては、生徒に学ぶ楽しさを充実させることができる授業の提供と、自ら積極的に学ぶ姿勢が築けるような支援を実施できるようにしていかなければならない。
 - ・進路指導については、三者面談をさらに充実させ、生徒だけではなく保護者へ対しての情報提供も積極的に行っていく。
 - ・生活指導は、特に自転車乗車時のマナーを始めとした、交通ルールの徹底が要望されている。また、部活動の活性化の持続を行っていくと共に学習との両立をサポートしていく。
 - ・学校行事に対しての期待度は高く、生徒が自ら考え行動することができる力の育成が望まれている。コロナ禍で失われたものを活性化させていくことが急務である。
 - ・学校広報は、ホームページ等の更なる充実が求められており、学校の様子や生徒の活動をわかりやすく紹介するようにしていく。またお知らせ等のオンライン化を望む声が多い。
- 以上のことをまとめて、評価委員会からの提言は、以下の通りである。

①学習指導

- ・生徒が自ら積極的に学ぶ姿勢を築くため、学習課題の質や量の検討を行い、学習の質の向上を図る。

- ・ICTを活用し個々の課題に取り組めるように改善していく。
- ・長期休業期間中の講習等を充実させる。

②進路指導

- ・生徒、保護者への情報発信を充実させていく。

③生活指導

- ・部活動と学習の両立を図る。
- ・自転車マナーを始めとした、交通ルールの徹底をさせる。

④学校広報

- ・オンラインを活用した連絡ツールの導入を図る。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度は、対面実施を行うことが出来た。次年度もできる限り対面実施できるようにする。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・アンケートの回答率が低い状況である。適正な評価を行うためには、保護者や地域の方に対して、もっと情報を提供する仕組みづくりを行う。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・分掌間や学年・分掌間で事前調整を綿密に図ることが重要で、中心となる分掌に核として行わせ、相互理解をなお一層推進していく。

（2）学習指導

- ・自宅学習時間の確保は、学力の向上のために大切な事柄である。十分な時間を確保するためには、時間の有効活用も鍵となる。
- ・生徒の自己実現を叶える授業改善を目指し、教科会を活用して授業力向上に努める。

（3）特別活動

- ・学校行事や部活動において、自ら考え・行動する姿勢をもって行動できる人材を育てていく。

（4）生活指導

- ・日頃から生徒の身だしなみや行動への注意喚起を学校として行い規範意識をもたせる。

（5）進路指導

- ・進路指導部と学年の情報共有・組織的な連携を強化し、生徒の進学希望を叶える進路指導計画に沿って実践していく。

（6）健康・安全

- ・生徒支援委員会を柱として、問題を抱えている生徒に関して共通理解するとともに、学校全体で組織的な指導や支援ができる体制を構築する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 7人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5						2